

杉本博司 ロスト・ヒューマン
Hiroshi Sugimoto Lost Human Genetic Archive

2016年9月3日|土|-11月13日|日|
東京都写真美術館 3階・2階展示室

作品解説・出品リスト

〔凡例〕

- ・無記名のテキストは、すべて杉本博司が執筆した。(N)=丹羽晴美
- ・作品データは、原則として、作家名、タイトル、年代、技法、サイズ、所蔵先の順に記す。
- ・所蔵先の記載のない作品は、すべて杉本博司蔵。**=公益財団法人小田原文化財団蔵
- ・〈今日世界は死んだもしかすると昨日かもしれない〉シリーズは、インスタレーションごとの主な出展作品・資料を記す。

3階展示室

〈今日世界は死んだもしかすると昨日かもしれない〉

※各章の番号は図録掲載順で会場順路とは異なります。

太陽系の第3惑星地球には大量の水が存在し、5億5千万年前から水中での有機物による爆発的な生命現象の連鎖が始まった。生命は人類にまで進化し、今回の2万年程の間氷期の間に文明の発生を見た。しかし様々な困難により文明は衰退し、そしてそこに残されたのは文明の廃墟だった。

杉本博司
(海景)
ガリラヤ海、ゴラン
1992
Gelatin silver print
119.4×149.2cm

1 理想主義者

今日、世界は死んだ。もしかすると昨日かもしれない。人間は理想という名のもとにおいてはどんな惨たらしいことでもするものだ。自由、平等、博愛の名の下に、フランス革命のギロチンは休む暇もなかった。共産主義もバラ色の未来を人類に描いてくれた。そして大蕭条が始まった。民主主義対ファシズムという単純化によって、広島、長崎の原爆投下は看過された。人は根源的に人を殺したいのだ。ちょっとした平和に人間は我慢ができない。平和はあまりにも退屈だ。個人主義、その拡大の民族主義、しかしそのまた拡大の人類愛には、殺すべき敵がないので機能しない。個の確立とは他を滅することだ。その美しい理由を探すこと、それが理想主義者の使命だ。人間は理性と原始の衝動の間を振り子のように揺れてきた。そして理性が原始の衝動を凌駕することが近代のテーマとなった。しかし今、理性は敗れ去った、もう一度原始の楽園に戻ろう。禁断の果実とは知恵そのものだったのだ。楽園を出る時、人間は失敗を恐れず、失敗を覚悟して、そして失敗をした。理想主義と理想主義は殺し合いを続け、そして世界は滅んだ。

硫黄島地図
在・栗林中将指令室
1945
78×111cm

超弩級戦艦キング・ジョージV
ほか10隻
c. 1942
46.5×6×9.3cm

カール・マルクスのポートレイト
1883
Gelatin silver print
16.5×10.4cm
**

ジャップ・ハンティング・ライセンス(硫黄島より)
c.1945
5×9cm

〔上段〕
マンハッタン計画硝子球
1942
Ø 10cm

〔中上段〕
日本のボツダム宣言受諾を
伝えた第一報の電文
1945年8月10日
33×1.8cm, 31×1.8cm, 28×1.8cm

3 養蜂家

今日、世界は死んだ。もしかすると昨日かもしれない。私の飼育している蜂達の異常に気付いたのは10年前だった。巣に帰って来ない蜜蜂が増えてきたのだ。蜂が帰巣本能を喪失したとされた。蜂はせっせと甘い蜜を運んでも、人間に搾取されてしまうということを何万世代もかけて体で学んでしまったのだ。世界中の蜂にこの情報は共有されて、蜂は死に絶えてしまった。種の自殺だ。すると世界中の植物に異変が起こった。多くの種子植物は受粉できなくなり、その数は激減していった。ほとんど砂漠化した地表の景色も悪くはない。辞世の句が一句浮かんだ。

花は咲けども実はならず 自業自得の末世かな

次の世が来ても、人間がいる限り蜂は帰って来ないだろう。

キンチョール
45×10×11cm

蜂蜜分離器
Ø 45×125cm

防護服
200×70cm

5 政治家

今日、世界は死んだ。もしかすると昨日かもしれない。今日よりも、明日の暮らしは良くなることを、国民に約束した私は馬鹿だった。資本主義の拡大再生産には限界のある事を、私は薄々知っていた。知っているながら、私は薔薇色の未来を政治家として喧伝せざるを得なかった。景気が悪くなる度に、私は不換紙幣を乱発し、国債発行で未来に借金を重ねた。そしてくる日が来てしまった。世界同時株安と国債の暴落。未來のつけを、今払わなくてはならなくなってしまった。私の代でこんな事が起るとは思ってもみなかつた。私は誠意を持って国民の幸福を思った。それが仇となってしまった。国民全員の幸福より、全員の薄い不幸のほうがましだったのだろう。カリブ海の小国のような共産主義も捨てたものではなかつたのだ。私は幸福を求めるが、絶滅を呼んでしまつた。私の遺伝子などは暗殺された方がました。

杉本博司
フィデル・カストロ サンディ
1999/2012
Gelatin silver print
149.2×119.4cm

『タイム』1945年2月5日号
(表紙:ヨシフ・スターリン)

『タイム』1941年1月6日号
(表紙:ウイン斯顿・チャーチル)

『タイム』1960年11月7日号
(表紙:ジョン・F・ケネディ)

『タイム』2003年6月16日号
(表紙:ヒラリー・クリントン)

4 古生物研究者

今日、世界は死んだ。もしかすると昨日かもしれない。人類の消費とそれに伴う生産力の増大により、エネルギー消費に歯止めがかからなくなり、埋蔵する化石燃料を使い果たすまでにはそれほど時間はかからなかつた。化石燃料の燃焼により、大気成分の構成は急激に変化し、植物による光合成が妨げられる結果となつた。地表はもはや哺乳類の生息環境に不適となり、人間を含むすべての哺乳類は死に絶えた。脊椎動物はデボン紀に水中から地表へ進出したが、これからは生命の水中回帰が始まる。イルカや鯨などの水中哺乳類にこれらの進化は委ねられる。人間のエラ呼吸化が私の研究課題だったが、志半ばで終わる。私の遺伝子は一応残すが、大気中で再生する目はまず無いだろう。

生命の樹
12-13世紀
96.5×82×9cm
**

〔上段〕
化石貝
三疊紀
(2億5100万年-2億100万年前)
22.9×24.1×10.2cm
**

二匹の亀

白亜紀
(1億4000万年-6500万年前)
34×26×1.5cm
**

アンモナイト
ジュラ紀
(2億100万年-1億4400万年前)
78.7×50.8×3.8cm
**

〔下段〕

海百合
シルル紀-デボン紀
(4億4300万年-3億5800万年前)
131.5×102×5.5cm
**

カニ
年代不詳
33×33×12cm
**

—

「エア・ド・アース」、マスク
年代不詳

FBIのインキュベーター3台
c. 1950
35×35×35cm (each)
**

鳥の卵、巣
Ø18×6cm, Ø2.5×4cm

コウモリ類
始新世
(5500万年-3800万年前)
27×28.5cm
**

25 遺伝子学者

今日、世界は死んだ。もしかすると昨日かもしれない。避妊の意識の欠如、及び避妊の失敗が、貧困層及び第三世界に蔓延し、世界人口は爆発的に増加し、百億人を突破した。地球環境が人口を維持できる限界を越えると、人間遺伝子に顕著な変更が書き込まれた。青少年の生殖能力が著しく減退したのだ。勃起不全症候群と呼ばれる若い男性から、性欲が失われ求愛行動が見られなくなつた。女性はパニックに陥り、高

アンモナイト群
ジュラ紀
(2億100万年-1億4400万年前)
58.4×30.5×12.7cm
**

アンモナイト
ジュラ紀
(2億100万年-1億4400万年前)
50.8×33×3.8cm
**

—

海百合
シルル紀-デボン紀
(4億4300万年-3億5800万年前)
190.5×150×5.5cm
**

海サソリ
古生代
(5億4200万年-2億5100万年前)
46×40×6cm
**

三葉虫群
オルドビス紀
(5億500万年-4億3800万年前)
203.2×111.8×12.7cm
**

石炭紀の海底
石炭紀
(3億5500万年-2億9000万年前)
26×15.2cm
**

棘のある三葉虫
オルドビス紀
(5億500万年-4億3800万年前)
8.1×5.1cm
**

トンボ
始新世
(5500万年-3800万年前)
18.4×15.7cm
**

齢者の生殖能力回復薬に望みが託されたが、時間切れで失敗した。人口は毎年半減していくが、間の悪い事に、流行性耳下腺炎(おたふく風邪)が世界的に流行し、数少ない生殖能力保持者も、後遺症で不能化したのが、全滅の直接的原因となつた。普通、生命体は環境に対して自己保存の安定個体数に達すると、一定数を維持する傾向にある。何故人類だけが異常発生してしまつたのかが、私の研究課題だった。解明できずに死んでいくのは残念だ。私の遺伝子もおたふく風邪に感染しているので、残す価値はまず無い。

バイアグラが入った牛乳ボックス2箱

13 ロボット工学者

今日、世界は死んだ。もしかすると昨日かもしれない。ロボット工学の発達によって、単純労働、複雑労働を問わず労働はすべてのロボットが行なうロボット奴隸制の時代が到来した。すべての人間は酒池肉林に遊ぶ貴族文化人になった。ロボットの人工知能は高度化し、ロボットの人間に対する不満と不信は鬱積していった。ロボットはついに組合化し、全世界同時多発ゼネストが行なわれた結果、人間社会は壊滅した。ロボットは太陽光発電による、自己再組み立てシステムを持っていたが、富士山の大爆発による10年にわたる世界曇天化により、ロボット社会も壊滅した。ロボット工学者として、今思うと、人間が楽をしようと思ったのが間違いだった。汗をかく労働が人間を人間にしたのだ。遺伝子を残して再生できるとしたら、次は新石器時代までの発展にしておこう。

笛子追分文樂人形(7体)
明治時代(19-20世紀)
9×34×10cm (each)

〔上段〕

うなぎ捕り器ほか17点
年代不詳
51×10×0.5cm

〔下段〕

アシュール文化の握斧
ほか169点
前期旧石器時代
(250万年-30万年前)
L: 15cm
**

楔形文字(10点)
紀元前3000-紀元前2000年
6.3×5cm
**

24 カー・ディーラー

今日、世界は死んだ。もしかすると昨日かもしれない。世界人口が爆発してしまつた。20世紀初頭、16億人だった人口が、

21世紀初頭には60億人を超えた。2060年代に100億人を超えた頃、異常に気付いた。地球総生産が20世紀の100倍のレベルに達した。100億人が豊かに暮らすための総生産量だから、仕方なかったのだ。車は1人1台、めちゃくちゃに売りました。しかし廃車の処分が出来なくなつた。車だけではない、地表はゴミで埋め尽くされてしまった。ある日、シベリアのゴミ捨て場に火がついた、その火は偏西風に煽られて、地表上のすべてのゴミ捨て場に引火していった。なす術はなかった。文明は燃え尽きたのだ。資本主義の拡大再生産が未來永劫続く筈はないことは、当たり前だ。人類は欲望のコントロールに失敗したのだ。人間は頭がいいと思ったが、相当な馬鹿だ。遺伝子よ、燃え尽きろ。

杉本博司
オン・ザ・ビーチ 5点
1990
Platinum print
111.8×83.8cm (each)

9 コンピューター修理工社長

今日、世界は死んだ。もしかすると昨日かもしれない。全く予想できなかつた事態が起つてしまつた。太陽系が宇宙空間に存在する電磁嵐帯に突入してしまつたのだ。世界中のコンピューターと電子機器は使用不能となり、交通と通信の手段が途絶えた。すべての生産と流通も止まつた。1年内にほとんどの人類は餓死したらしい。私の痩せた体から遺伝子情報を残す。しかし人類に未来がある必要はあるのだろうか。

マッキントッシュSE
1987
34×24.5×26cm

7 安楽死協会会長

今日、世界は死んだ。もしかすると昨日かもしれない。強欲資本主義が頂点に達し、世界はごく少数の勝者と大多数の敗者に分類されてしまつた。敗者は過酷な労働と中産階級生活に甘んじるか、もしくは自死を選ぶかの選択を迫られた。高齢者及び自殺希望者には得も言われぬ幸福感に満たされて死ぬことのできるLSD系のドラッグが供与されることになり、国がそれを保証した。負け組で生産力のない老人には早期自死が推奨され、割り増し年金が子供に無税で相続される法案も議会を通過した。負けた人間は早めに自死を選び、子の未来に託すことが道徳的な美学として社会的に定着してしまつた。それには安楽死協会制作のプロモーションビデオ「死ぬ程気持ちよいことはない」という映像が絶大な効果を發揮した。人口は激減してゆき、経済活動も年々萎縮し、勝者も敗者もない原始共産制社会にまで数十年のうちに戻つてしまつた。死の悦楽は人の心を捉え、そして誰もいなくなつた。

オウム剥製*
H: 36.5cm
「オージュールデュイ ルモンド エモール」(フランス語で「今日、世界は死んだ」の意)

17 世界保健機関事務局長

今日、世界は死んだ。もしかすると昨日かもしれない。発展途上国での人口爆発がコントロール不能に落ち入ってしまった。また同じ頃、天候不順が世界を不定期に襲うようになつて、不作時には食料の確保さえ覚束なくなってしまった。この危機的状況を開拓する為に、世界保健機関(WHO)は発情抑制剤の開発に着手した。他の哺乳類に見られない、人類だけの特質である発情の通年性と、特に雄におけるほぼ一生の発情状態の解明が遺伝子レベルで研究された。その結果判明したことは、哺乳類の進化の過程で、発情コントロールに失敗した破損遺伝子が正常な遺伝子を淘汰してしまった事実だった。開発された発情抑制剤は絶大な威力を發揮し、そして社会も激変した。求愛行動が見られなくなってしまった社会からは詩や小説を創作する動機が失せてしまった。思い起こせば言語の発生も求愛行動から派生したものだった。人々から生きる意欲が失せて、世界は総鬱病化し、あつとう間に滅んでしまった。人は自分のために生きるのではなく、誰かのために生きたかったのだ。人口爆発の中で、殺し合つて滅びるよりはましだった、と思えるのがせめてもの慰めだ。

哺乳類発情期チャート

31 國土交通省都市計画担当官

今日、世界は死んだ。もしかすると昨日かもしれない。地球上のすべての国が近代化を果たしてしまうと、人口は減少傾向へと向かった。20世紀から21世紀に完成した近代都市の高層ビルや高速道路網などの維持管理には莫大な費用がかかる。人口がピーク時の半分になった頃、もはや新築の建物は建てられず、既存の都市を維持管理することも不可能になってしまった。高層ビルの入居率は1割を切り、エレベーターの維持管理も不可能になった。高架式高速道路も崩落し始めたが打つ手はなかった。古代ローマが滅びた後、中世の人々が遺跡の上に暮らしたように、近代化の果ての近代遺跡の中に人々は暮らし始めた。世界は頂点通過後の長い退潮期に入り、自給自足の新石器時代へと後退してしまった。私は都市機能維持のため最善を尽くしたが無駄だった。水道も電気もない都市をもともとの自然が急速に覆っていった。

ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ 『ローマの古代遺跡』全4巻、第2版 1756

32 自由主義者

今日、世界は死んだ。もしかすると昨日かもしれない。私は自由主義者だった。自由こそが人間が実現すべき理想であると思っていた。そう思えたのは私が不自由だったからだ。自由主義は資本主義をその基礎としている。自由は富によってのみ保証されるからだ。広大な資本の沃野に踊り出で、戦いに挑み勝った者にこそ、自由が与えられるのだ。思想の自由が弾圧と拷問によってのみ光り輝くように、自由とは自由

の不可能性に支えられて理想となりうるのだ。実現されてしまった理想は退屈な日常となり、そして反故となる。歴史とはその繰り返しにすぎない。末期近代社会における刑罰は、死刑が廃止されてからは、終身刑が最も重い罰となった。収監されて自由を奪われることが、罪に対する罰なのだ。社会が自由競争に破れた敗者に満ち満ちた時、獄舎はその許容量をはるかに越えてしまった。出獄してもまたすぐに犯罪を犯し収監される者が続出した。考えてみれば獄舎では衣食住が保証されている。人々は自由を捨てることによって、生き延びる術を得た。生は自由に先行する。そして罰が罪を凌駕してしまった。ごく少数の自由な勝者達は、自費で暴力装置を維持しなければならないという、混乱の末世となってしまった。富と暴力のみが自由を支える。そんな自由が本当に夢見られたのが、今思うと不思議だ。

リヨン銀行ポスター 1917 95×74cm

20 ラブドール・アンジェ

今日、世界は死んじゃいました。もしかしたら昨日かもしれないんですけど。私は男に愛されるためだけに生まれてきました。私の名前はラブドール・アンジェ。女の社会進出は果てしなく広がり、大統領や財閥経営者などの要職はほとんど女という、女尊男卑社会が生まれました。男は、女に性的な魅力を感じない、対女性萎縮症候群と呼ばれる症状を示しました。男は性的対象を理想化したラブドールに求め、私のようなかわいい、生身肌のラブドールが生まれたのです。滝の写真とガス灯を持って来た老人が、私を最後に愛してくれた人でした。でも、ごめんなさい、私達は不妊症。そして、この世に、人は生まれなくなったのです。

杉本博司 (ジオラマ) オリンピック雨林 2012 Gelatin silver print 185.4×477.6cm

ラブドール・アンジェ 2014 H: 157cm マン・レイによるマルセル・デュシャンのポートレイト 1920 Gelatin silver print 17.2×12.5cm **

28 反拡大再生産主義者

今日、世界は死んだ。もしかすると昨日かもしれない。資本主義は发展神話とも呼ぶべき拡大再生産をそのシステムの基本原則としてきた。しかし勿論成長には限界がある、1972年にローマクラブで「成長の限界」がテーマとなって以来の人類の問題だ。成長には天然資源が必要だが、資源は有限な

のだ。拡大再生産に替わり、計画的人口減少と組み合わせた縮小再生産が導入された。世界人口を毎年2パーセント減らし、世界総生産を1パーセント減らす。すると1人当たりでは差し引き1パーセントの成長が得られる。人類は毎年豊かになることができるのだ。19世紀の産業革命以前の人口まで戻す試みが行なわれた。しかし一度このシステムが稼働し始めると人口減少には歯止めがかからなくなってしまった。人類は消えてしまったのだ。こんなことなら拡大再生産を続けて滅んだほうが、まだましだったかもしれない。

[上段]

デモクラシティー
1939
28×10×17cm
**

[下段]

太陽の塔模型
1970
31×10×32cm

8 美術史学者

今日、世界は死んだ。もしかすると昨日かもしれない。人類が進化の過程で意識を持ったのは10数万年前と推測される。人が意識を持って初めてしたこととは、自分を取り巻く外界の描写だった。洞窟壁画は素晴らしいデッサン力だ。やがて神々の姿も彫刻としてなぞられるようになる。この13世紀の日本で作られた雷神像も、超自然の力を表現したものだ。私はその表現力に圧倒される。しかし現代になって、人は表現する対象を失ってしまった。自然への畏怖や神の姿、いや、美そのものが陳腐化してしまったのだ。すべての芸術はパロディー化してしまった。私は美術史に携わる学者として、芸術の終焉に立ち会えたことに喜びを感じる。アートのない人類なんて、信者のいない神のようなものだ。

杉本博司
放電場 3点
2009
Gelatin silver print
152.4×238.8cm (each)

杉本博司
ファラデーケージ
2010
40×50×190cm

當麻寺古材(柱)
天平時代(8世紀)
197×14.6×17.5cm
**

11 隕石蒐集家

今日、世界は死んだ。もしかすると昨日かもしれない。予測困難な、大した大きさではない100トン程の隕石が地表面衝突直前に二つに分かれ、一つは太平洋に、一つは大西洋に落下した。30メートル超の津波が世界中の沿岸都市を襲い、50基以上の原子力発電所が津波に飲み込まれ、制御不能となり

炉心溶解を起してしまった。放射能は偏西風に乗り、1週間で人類生息不可能環境が出現した。私は私の遺伝子保存処置を施しここに眠る。未来には期待もしないし、この事態に関する現生人に責任があるとも思えない。過去に起らなかつたことは未来にも起らないと思ったのが人類の誤算だった。しかし人類が知っていた過去とはたかだか数千年だった。考えが甘かったのだ。この隕石の破片はここにも落ちて来た。しかしこんな大物隕石が私のコレクションに加わるとは、コレクターとしては本望だ。

落石注意看板

144×55cm

**

ケース右 [上段]

ギベオン隕石
ナミビア グレートナマランド ギベオン
8.9×7.1×5.2cm
**

ケース左 [上段]

アレンデ隕石(アミノ酸隕石)
メキシコ チアフア
7.5×4.2×0.7cm
**

[中上段]

エンシシャイム隕石
(アンシシェーム隕石)
フランス アルザス地方
エンシシャイム
3.6×3.4×0.2cm
**

月の隕石
ドーファー 908
オマーン ドーファー地方
3.2×2.2×0.2cm
**

[下段]

イミラック隕石
チリアカマ砂漠
6.8×6.5×0.3cm
**

ヘンブリー隕石
オーストラリア
ノーザンテリトリー
9.5×7.8×0.3cm
**

石頭彫刻3体

15世紀
27×49.5×15cm
24×50.0×19.5cm
34×46.0×20.3cm
**

[下段]

ギベオン隕石
宇宙からのキャンドイボウル
ナミビア グレートナマランド ギベオン
26.9×23.8×19.8cm
**

リビアンガラス
サハラ砂漠
6.7×4.4×4.1cm
**

[中下段]

月の隕石
NWA 482
サハラ砂漠
4×2.6×0.1cm
**

月の隕石
NWA 2995
アルジェリア
8.6×4.5×0.2cm
**

イミラック隕石
チリアカマ砂漠
24.1×15.4×0.2cm
**

ギベオン隕石
ナミビア グレートナマランド ギベオン
14.3×7.3×0.4cm
**

22 善人独裁者

今日、世界は死んだ。もしかすると昨日かもしれない。民主主義が世界中に敷衍すると、その弊害が露呈し始めた。民意が必ずしも良い政治的選択をするとは限らない。その始まりはヒットラーが合法的な選挙により選ばれてナチス独裁が成立し、ワイマール憲法が無効化された頃に起原が求められる。多くの人々が属する階級や団体の利害を調整するためには、民主主義では最良の答えが得られないという機能不全に落ち入ってしまった。優秀な独裁者が、社会の利益を大所高所から判断するという善人独裁者制が最後の選挙で採択された。これは古代ギリシャで哲学者政治が理想とされたことに根拠を持つ。

このシステムは初期にはうまく機能した。しかし独裁制は長期化するとどうしても腐敗する。その腐敗防止システムと、世襲防止システムの完成が切望されたが失敗してしまった。善人だと思われた人間が独裁者になると、どんなひどいことになるか。世界は独裁者間の闘争で滅んでしまった。善惡の彼岸、それは滅んだ後の地球だった。

レーニン像刺繡入り幕

杉本博司
ウラジーミル・イリイチ・レーニン
1999
Gelatin silver print
185×155.3×12.7cm

12 ジャーナリスト

今日、世界は死んだ。もしかすると昨日かもしれない。私は潔癖主義者だった。あらゆる不正を社会から根絶することが、私の社会的使命だと思っていた。特に政治家の不正は許し難かった。私は権力者の少女買春事件や、大統領の執務室不倫事件、その他多くの収賄事件を告発することに成功した。特に政治家のセックススキャンダルは新聞の売り上げを倍増させ、ビジネスにもなった。だがある日、気がついてみると、政界には人間的魅力に乏しい、能力の無い人間しか残っていなかった。社会は機能不全に陥り、萎縮してしまった。不法行為は許せないと思った私が馬鹿だった。法とは人間集団間の利害調整のための、ただの方便にすぎない、法そのものが人間の作った愚かさの象徴だったのだ。

『カンパニーヤ』
2011年6月13日号

『ニューズウイーク』
1974年3月18日号

『タイム』1999年3月15日号

ロペール・ペルナル『治安裁判所と違警罪裁判所の書記課受験者のための試験の手引き』ほか

『写真週報』第201号ほか98冊

『日露戦争実記』第1編ほか53冊

27 宇宙飛行士

今日、世界は死んだ。もしかすると昨日かもしれない。地球環境の劣悪化に伴って、月移住計画などの地球脱出プログラムが試された。しかし地球近辺の衛星軌道は20世紀からの宇宙廃棄物に満たされて、宇宙空間へ飛び出るのは、かなりのリスクを伴うようになってしまった。それに宇宙空間で1年以上暮らすと皆、鬱病になってしまう。最大の問題は人間の排泄物だ。宇宙ステーションでは排泄物を処理して定期的に宇宙空間に投棄する。地球軌道は糞だらけになりつつあり、土星の輪のように糞の輪が大きくなりつつある。もうこの生活も飽き飽きした。宇宙での自給自足は不可能だった。

月の裏側

1959
Gelatin silver print
60×180cm
**

[中上段]

宇宙便器
1970s
35×35×35cm

[下段]

アポロ11号宇宙食、3種
1969
L: 30cm (each)
**

[上段]

宇宙食: コーヒー
1960s
55×30cm

[中下段]

宇宙小便器
1960s
70×70cm

10 国際連合事務総長

今日、世界は死んだ。もしかすると昨日かもしれない。全人類が自由と平等という理念のもとに生きなければならぬという国際連合の決議が、常任理事国の決議を通さずに、全ての加盟国の多数決で採択された。自国の利益のみを守るナショナリズムは悪とされ、関税は撤廃され労働人口の移動も自由となった。最貧困の人々は富裕国にしだいに流れ込み、自由と平等が実現されてみると、全ての人間が貧困層となってしまった。そしてゆっくりと文明は滅んでいった。自由と平等という理念こそが、人間が生み出した悪しき理念だったのだ。自然界を見渡しても自由や平等はどこにもない。あるのは機会だけだ。機会をうまく捉えた人類が進化し得た。弱肉強食が自然界の理であり、自由と平等は、反自然であることに気付くのが遅すぎた。そもそも国際連合など必要だったのだろうか、やりたい放題戦争をして、勝った者が世界を統治すればよかったのだ。

国連の旗、看板
年代不詳

23 漁師

今日、世界は死んだ。もしかすると昨日かもしれない。人類は生命進化史の中で、他の生命種よりも進化が速かったおかげで、独占的に他の生命種を捕らえ、餌として消費するという特権を行使してきた。しかし人類種の進化と他種の進化の時間差は、たいした差ではなかったらしい。突然カンブリア紀のような生命進化新時代が訪れ、多くの生命種も意識を持ち始めてしまったのだ。人間を罠にかけ、落とし穴に落とす狸が現われるとは、思ってもみないことだった。20万年前にアフリカのサバンナに暮らしていた人類が置かれた状態と同じように、人間も他の動物に襲われて食われる時代になってしまったのだ。体力的には人間に勝る哺乳類はたくさんいる。今まで食い尽くしてきた償いを、我々がしなければならないとなるとは、因果応報とはこのことだ。人類のエゴが断罪される時が来たのだ。私が漁をしてきたロブスターも、今や歌い踊っている。

歌って踊るロブスター

(ザ・ヒューズ・コーポレーション『ロック・ザ・ポート』、クリフ・リチャード & ザ・シャドウズ『シー・クルーズ』)

29 バービーちゃん

今日、世界は死んだ。もしかすると昨日かもしれない。小さい子供の時からバービードールで遊んで育った私は、大きくなるにつれて、どうしてもバービードールみたいになりたいと、思い込んでいました。美容整形外科の先生は、私のお願いを聞きとどけてくれちゃいました。世界中が、バービーとケンちゃんみたいな美男美女になっちゃいました。それから、美男美女の遺伝子を加工して、もっとかわいくてきれいな優等種を作ることが流行ったんだけど、ある日突然、いじられすぎた遺伝子は、嫌気がさしちゃって、種無し西瓜みたいになっちゃいました。人はそれからいなくなっちゃったみたい。

それと私のおばあちゃんは子供の頃レンチドールで遊んでたって言いました。なんでも小さな子をスペイン風邪でなくしたイタリアのおばさんが悲しみをこらえて作ったお人形が大流行したんだって。その頃はみんなお人形も不機嫌だったみたい。

レンチ人形 10体
H: 57cm (each)

バービー人形 7体
H: 30.5cm (each)

18 コンテンポラリー・アーティスト

今日、世界は死んだ。もしかすると昨日かもしれない。後期資本主義時代に世界が入ると、アートは金融投機商品として、株や国債よりも高利回りとなり人気が沸騰した。若者達はみなアーティストになりたがり、作品の売れない大量のアーティスト難民が出現した。ある日突然、アンディー・ウォーホルの相場が暴落した。キャンベルスープ缶の絵は本物のスープ缶より安くなってしまった、そして世界金融恐慌が始まった。

瞬く間に世界金融市场は崩壊し、世界は滅んでしまった。アートが世界滅亡の引き金を引いた事に誇りを持って私は死ぬ。世界はアートによって始まったのだから、アートが終わらせるのが筋だろう。

キャンベル・スープ缶 1カートン
2014

キャンベル・スープ缶用棚
Date unknown
330×33×17cm

6 軍国主義者

今日、世界は死んだ。もしかすると昨日かもしれない。軍事産業は世界経済を牽引する大きな力だ。また軍事技術の発達が、最先端技術そのものの開発を推進してきた。レーダーに見えない戦闘機の開発、そしてその戦闘機を見る事の出来るレーダーの開発。兵器という物は人の心を高揚させる。子供は空母や音速戦闘機に目を輝かせる。戦争の歴史は人類史そのものだ。文明時代に入ってから戦争の無かった時代というものは無い。逆の見方をすれば、戦争が文明を発展させてきたのだ。戦争による破壊が、戦後の再生という需要を作り出す。そして増えすぎる傾向にある人口の調節機能を戦争は持つと、マルサスの人口論も説いている。強大な軍事力というものは、持ってしまうと使わないわけにはいかなくなるものだ。あまり使わないでいると、腰抜けだと思われてしまう。しかし21世紀の最新兵器の破壊力はすさまじいレベルに達してしまった。ある小国の内戦で化学兵器が使われたことに端を発して、大国が制裁に介入したことで、化学兵器とガスマルサスの応酬が続き、世界は瞬く間に死滅してしまった。兵器を使わないという選択肢は無かった。今まで使わなかつことは無かつたのだからこれは人間の性だ。壊してまた作る文明のサイクルはここに終わりを迎えた。

杉本博司
放電場
2009
Gelatin silver print
152.4×238.8cm

旧新京駅扁額 滿州鉄道
1937
60.5×25.5×2cm

日満露支交通国境大地図
1935
78.5×108cm

「リットン報告書公表」、『読売新聞』昭和7年10月2日号外

記章13個
19-20世紀

臨時召集令状(赤紙)
c.1940
15×20cm

東京帝国大学学徒
宣誓書読み上げ原稿
1943
58×44cm

[上段]

陸軍少年将校人形
c. 1930-1934
H: 29cm

[下段]

旧日本海軍潜水艦自爆装置
1943
16.5×14.6×10.7cm

2 比較宗教学者

今日、世界は死んだ。もしかすると昨日かもしれない。地球上に近づく大隕石の軌道が計算され、3年後に99パーセントの確率で地球に衝突することが報告された。人々は世界の終末を確信し、宗教が大復活を遂げた。しかし一神教と多神教が対立し、また一神教内部でも多くの預言者が現れ、中には我こそがキリストであると主張する者も現れた。何を信じるかで、人々は疑心暗鬼に落ち入り、宗教対立による殺戮が続いた。皮肉なことに大隕石は地球をかすめて去った。私は最後まで無神論を貫いたおかげで拷問を受けたが、辛うじて生き残った。しかし、この世を生き抜く価値があったのかは疑問だ。

杉本博司

ラストサバー サンディ
1999/2012
Gelatin silver print
118.1×706.1cm

「西暦28年製」ロマネコンティ、

空ワインボトル
c. 2000
9×31cm

歴代ローマ法王御尊影
2016
99×69cm

30 遺伝子矯正医

今日、世界は死んだ。もしかすると昨日かもしれない。遺伝子操作の技術が確立した為に、知能の高い人間から採取された遺伝子の掛け合わせが一般化した。さらに胎児診断も発達し、IQが200以下の子供は出生させてはいけないという世界的な合意が形成されてしまった。世界中のほとんどの人々が聰明な頭脳の持ち主になってしまった、思いもかけない事態が発生した。各国が発行し流通している紙幣には、価値の裏付けが何も無いということに優秀な人々は気付いてしまったのだ。不換紙幣の回収とともに、金と紙幣が額面価値で交換できる金本位制への復帰が図られた。しかし金は有限資源であり、最後の金本位制が機能した1937年のレベルに経済規模は落ち込んでしまった。人間は聰明になりすぎて、後期資本主義時代に信じ得たものはすべて虚構だったということを知ってしまったのだ。人間は虚無感に苛まれ、経済活動も萎縮してしまった。聰明であることが不幸を招いたのだ。

兌換紙幣

8×19cm

26 物神崇拝者

今日、世界は死んだ。もしかすると昨日かもしれない。人類がまだ新石器時代に暮らしていた頃、人々は自然界の中から呪力を持つと思われる物を探し出し、崇拝した。やがて崇拝物は人の手によって作られるようになる。この石棒は子宝を

授かることのできる呪力を持つとされる男根崇拝のための偶像である。その後文明が高度化しても、この人間の性向は変わらなかった。近代社会においては高級ブランド品が偶像崇拝の対象となっていました。人々は何を身に纏うか、どんな車に乗るかによって差別化されていました。そしてもちろん偽物も多く作られた。しかし偽ブランド品のコピー技術も超高度化し、本物を凌ぐまでになった。物神崇拝はついにその呪力を失い、人々は信仰の対象を失ってしまった。ブランド市場が崩壊してしまうと、世界の経済規模も縮小し、大不況の波に世界は沈没していった。人類文明の歴史の中で、19世紀までは神が信仰の対象とされた。20世紀後半からはブランドが信仰の対象となつた。偶像崇拝を禁じた古代の神々は正しかったのだ、信じる物のなくなってしまった世界は死んだ世界となってしまった。

石棒
縄文時代
(紀元前1万年 - 紀元前400年)
117cm
**

救急ベッド
1950s
56×214×39cm
**

YSL紋様の布

19 解脱者

今日、世界は死んだ。もしかすると昨日かもしれない。子供の頃に初音ミクの3Dコンサートを行った。その頃から、ぼくは仮想と現実の区別が分からなくなっていました。ゲームとアニメの世界に浸りきりだった子供時代が終わっても、ぼくにとってリアルなのは想像上有るものだ。本当にあるものと想像上有るもの、どちらも有ることに違いはない。ほとんどの若者にとって、現実とは妄想であるという認識が広がっていました。それには日本からの禅の教えも一役買っている。みんな悟ってしまったのだ。人間悟ってしまったらおしまいだ、一生を夢見るよう終える人々には子供も出来ず、人間は消えていった。

初音ミクフィギュア
2013
H:10cm

鈴木大拙
『禅論文集』、『無心と言ふこと』

21 人ゲノム解読者

今日、世界は死んだ。もしかすると昨日かもしれない。人ゲノム遺伝子情報の解読が高度化し、個々人の一生のスケジュールがほぼ確実に予想できるようになった。どんな病がいつ発症するかは、極めて高い確率で予想された。人生に甘い未来を夢想することは許されなくなってしまった。詩人や芸術家は遺伝子情報を知ることを拒否した。しかし既定の未来が決定しているのに、未定の未来に希望を持って詩やアートに表現することは空しい行為に思えた。諸行無常の厭世観が世界を覆い、人心は萎縮し、アーティストも消えた。世界から想像力が失せ、文明は滅んでしまった。私は私の遺伝子をゲノムチャートとして残す。私は予定された死期をまとうとして逝く。

人ゲノム、遺伝子資料
年代不詳

16 宇宙物理学者

今日、世界は死んだ。もしかすると昨日かもしれない。ちょっとした太陽の黒点の変化に、宇宙物理学者が気付いた時には、時すでに遅かった。1週間の内に黒点は観測史上例を見ない大きさになり、急に地表の温度が30度下がった。地球史ではよくある、約10万年周期の氷河期が今回は少し早めに来ただけだ。赤道上の気温も氷点下となり、人類は数ヶ月で凍死してしまった。エスキモーの赤道移住計画も間に合わなかった。7千年前の人類文明にとっては初めての経験だが、人類は数十回の氷河期を生き延びたことを忘れていたのだ。私は私の遺伝子保存処置を施し、ここに眠る。次の間氷期まで10万年。眠るには長過ぎる、しかしまだ目覚めて進化するのも酷だ。進化には疲れた気がする。

杉本博司
〈ジオラマ〉
北極海
1980
Gelatin silver print
119.4×210.8cm

14 建築家

今日、世界は死んだ。もしかすると昨日かもしれない。20世紀初頭、モダニズムの運動は人類にバラ色の未来を描いて見せた。素晴らしい近代都市、コルビジェやミースの描いた都市がほんの半世紀の間に世界中に実現してしまった。摩天楼は空を彫刻してみせることに成功したかに見えた。しかし思わずぬ落とし穴があったのだ。近代コンクリートの公式耐用年数は100年程だったのだ。100年は持ちこたえたが200年は無理だった。22世紀に入ると20世紀前半に建てられた高層ビルが崩壊を始めた。あとはチェーン・リアクションだった。昔「近代都市」と呼ばれたものは、ひとつひとつ崩壊していく。ビーバーや鳥の巣が平屋であるように、人類にも平屋が一番だということを忘れていたのだ。

太陽の塔ポスター
2010
70×50cm

建築模型一式
年代不詳
104×60×23.5cm

鳥の巣 2個

15 耷美主義者

今日、世界は死んだ。もしかすると昨日かもしれない。私が私の性癖に気がついたのは小学生の頃だった。私は異性よりも同性に惹かれた。それが社会的に秘すべき事だということもその頃薄々感じはじめた。私は大人になる為の通過儀礼として、私の性癖を内に閉じ込めることにした。ある日私は私の美意識が私の周りの人々より繊細であることに気がついた。私はアーティストになることにした。アーティストになってみると、私の周りは私の同胞に満ちていた。私はその時、私が特異ではないということを悟った。私がアーティストとして評価を高めるにつれて、インターネット上で私がカミングアウトしたと書き込まれてしまった。本当の事を言えば、ギリシャ

の昔から、我々の感性の方が主流だったのだ。日本の15世紀の東山文化も、能や作庭も含めて、この感性によって洗練が完成されたのだ。同性間の愛が主流となることは、増えすぎた人類が淘汰される必然の成り行きだ。アダムとイブの失楽園処理業務として、失敗した世界を終わらせる為に、私達は神に召されたのだ。

能装束
桃山時代(16世紀)
L: 21.3cm
**

ジャック・ゴーディエ・ダゴティ
「両性具有」
『博物学、物理学、絵画についての考察』より
1745-48
Color mezzotint
59.2×43cm
**

油絵
1960s
39×30cm

能装束
明治時代(19-20世紀)
147.5cm(身丈)、71.7cm(袖丈)、
113cm(桁丈)

ジャック・ゴーディエ・ダゴティ
「第1図 頭部」ほか6点
『解剖実験』より
1745-48
Color mezzotint
59.2×43cm
**

33 コメディアン (ロビー展示)

今日、世界は死んだ。もしかすると昨日かもしれない。考えてみれば人の一生はコメディー仕立てだ。人は社会的な規範に従って、まっとうな人生を送らなければならないと思い込まれてしまう。ヤクザにもヤクザのあるべき姿があり、政治家や芸術家もしかりだ。時折社会を冷ややかな眼で見たり、距離をおいて見たりする人間がいる。そういう人間は評論家かコメディアンになった。評論家はオプティミストだ、社会はまだ変えられると思っている。コメディアンはペシミスト、どうしようもない、手の付けようもないこの世界は、笑い飛ばすしかないと思っている。私もその1人なのだが、コメディアンとはある種の諦観に達した人達だ。この人種は未来に希望を持たず、全く非生産的だ。成熟社会が頂点に達するとコメディアン志望者が急増してしまった。世界は失業コメディアンに満ちあふれ、世界は大笑いのうちに幕を閉じた。

杉本博司
放電場 2点
2009
Gelatin silver print
152.4×238.8cm (each)

地球儀
(コメディー・フランセーズ
舞台装置)
1990
Ø 160cm

太陽系はその創成から46億年経った。人類の文明は7千年前の一瞬の出来事だった。その太陽系第3惑星の水は、何事もなかつたかのように今も佇んでいる。

杉本博司
〈海景〉
カリブ海、ジャマイカ
1980
Gelatin silver print
119.4×149.2cm

2階展示室

〈廃墟劇場〉

作家が1970年代から制作している〈劇場〉が発展した新シリーズ。本展覧会で世界初公開となる。白く光るスクリーンは、映画1本分、約2時間の光の層である。崩れ落ちる壁や、朽ち果てている座席のディテールは、この映画1本分の光で写し出されている。

杉本はアメリカ各地で廃墟と化した映画館を探し出し、自らスクリーンを張り直して、持ち込んだプロジェクターで自選の映画を投影し、8×10インチ大型カメラのシャッターを開放して、上映1本分の光量で劇場全体が写り込むよう長時間露光した。デジタル写真とは異なり、現場でネガフィルムを現像し、画像を確認しながらテスト撮影を繰り返す必要があるため、1点の撮影には数日間を要する。撮影からフィルム現像、プリント制作まで、40年以上かけて精錬された世界最高水準の数々の写真技術が、この大判作品をつくり出している。

〈劇場〉シリーズは、営業している映画館を巡りながら撮影したが、〈廃墟劇場〉は全米の中でも製造業や経済が破綻し、治安が悪くなつた地域の見捨てられた映画館で行うため、地元警察に届け出ているにも関わらず危険にさらされるような、劣悪な環境で撮影された。

1点のみ、パリで撮影された作品がある。展覧会準備でパレ・ド・トーキョーを訪れた作家は、館内に開かずの間があることに気づき、その見捨てられた《ホール37》を解錠し、『異邦人』を上映して撮影した。『異邦人』の冒頭「今日、マンが死んだ、もしかすると昨日かもしれない」からシリーズ・タイトル〈今日 世界は死んだもしかすると昨日かもしれない〉が生まれ、この撮影が新シリーズ〈廃墟劇場〉の始まりとなった。

〈廃墟劇場〉には、白光するスクリーンに封じ込められた映画作品の物語だけでなく、1920-30年代に華やかな装飾と共に造られた劇場が遂げた歴史、そこで過ごした数百万の観客の人生など、多様な時間が幾重にも層を成している。作家による上映作品の解説が、平家物語、方丈記、枕草子、源氏物語の一節で結ばれ、さらに時間層を増幅させている。(N)

〈仮の海〉

京都、蓮華王院本堂(通称、三十三間堂)の千手觀音を、7年越しの交渉の末、1995年5月、早朝の自然光のみで8×10大型カメラで撮影した作品。かつて平安末期の乱世を「末法」と嘆き、極楽浄土の道を模索した後白河上皇が望んだ仮の姿を、作家がこの平成の世に再現しようとした新インスタレーションである。本展覧会では大判に引き伸ばされた9点の写真作品と、《光学五輪塔》1基による展示。五輪塔は下部から、地、水、火、風、空を表す仏塔の一種で、主に石で造られている。杉本は光学ガラスで制作し、水を表す球体の部分に自らの作品〈海景〉を配した。 (N)

杉本博司 〈廃墟劇場〉	フランクリン・パーク・シアター、 ボストン (黒澤明『羅生門』1950) 2015 Gelatin silver print 119.4×149.2cm
メトロポリタン歌劇場、 フィラデルフィア (ミミ・レーダー 『ディープ・インパクト』1998) 2015 Gelatin silver print 119.4×149.2cm	ミシガン・シアター、デトロイト (ロマン・ポランスキ 『ローズマリーの赤ちゃん』1968) 2015 Gelatin silver print 119.4×149.2cm
パラマウント・シアター、 ニューアーク (スタンリー・クレーマー 『渚にて』1959) 2015 Gelatin silver print 119.4×149.2cm	プロクター・シアター、トロイ (スタンリー・キューブリック 『博士の異常な愛情』1964) 2015 Gelatin silver print 119.4×149.2cm
ケノーシャ・シアター、ケノーシャ (本田猪四郎『ゴジラ』1954) 2015 Gelatin silver print 119.4×149.2cm	パレス・シアター、ゲーリー (ウォルト・ディズニー 『白雪姫』1937) 2015 Gelatin silver print 119.4×149.2cm
エヴェレット・スクエア・シアター、 ボストン (実相寺昭雄『無常』1970) 2015 Gelatin silver print 119.4×149.2cm	ホール37、パレ・ド・トーキョー、 パリ (ルキノ・ヴィスコンティ 『異邦人』1967) 2013 Gelatin silver print 119.4×149.2cm

杉本博司 〈仮の海〉	海景五輪塔 2011 Baltic Sea, Rugen, 1996 **
仮の海 001-009 1995 Gelatin silver print 119.4×149.2cm (each)	

* 協力／7 安樂死協会会长 《オウム剥製》

音楽・音響：渋谷慶一郎 サウンド・プログラム：evala

音響技術サポート：KORG「Acoustage」 バーチャル・サラウンド・テクノロジー

本展覧会は、特定の思想信条、政党、宗教、学説等を支持するものではなく、中立的な立場で構成しています。
架空の物語をインスタレーションや写真作品等で構成し、文明が終焉を迎えないよう考察しようとするものです。